展示会視察レポート

つくばフォーラム2004（平成16年10月21日、22日）
（レゾナントコミュニケーションの加速に向け，本格化するFTTH）

黒岩　正信

アイレック技建㈱
推進技術部長

つくばフォーラム2004開催前日，今年上陸した10個目の台風23号が首都圏に向かっている状況の中，屋外会場設営作業は中止された。事務局によると,「このような事態は長いフォーラムの歴史の中で記憶がない」とのこと。

東京～大阪間の新幹線が全面ストップし，東京駅では帰れなくなった乗客250人が列車内で一泊した。このような状況の中，開催当日の午前5時には，台風の中心は開催地つくば市にあったが，そこから進路をかえるとともに急速に速度を増して，太平洋へ抜けて行った。奇跡的に首都圏の交通網は大きなダメージを受けずに,通常運行されていた。午前9時土浦駅に着き，基調講演が行われるつくば国際会議場へ専用バスで向かった。例年，聴講希望者が多く，会場に入れなかったことから，今回から約千人を収容できる国際会議場を使用することになったようで,ほぼ満席で山田隆持･日本電信電話株式会社代表取締役副社長の基調講演が時間どおりに行われ，つくばフォーラム2004が開幕した。

写真－1　山田副社長の基調講演

写真－2　メイン会場の受付

基調講演は,「レゾナントコミュニケーションの加速に向けたNTTグループの取り組み」と題して，日本におけるブロードバンドサービスの現状やR&Dの方向性が紹介された。

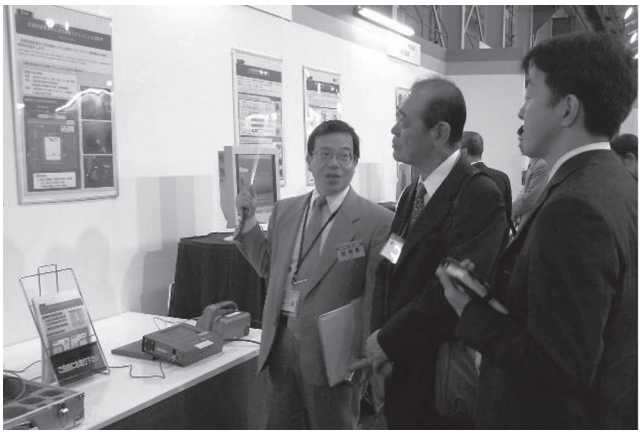
その中で通信サービスの健全な提供を続けるためには，基盤となる土木設備の計画的な維持管理が重要であり，巨視的超音波等の各種非破壊点検技術を活用する必要があることが説明された。日本のブロードバンド回線料金は世界において最廉価となっており，各家庭までの光ファイバーの敷設量(FTTH)も伸びて，e-JAPAN戦略における「5年以内に世界最先端のIT国家となることを目指す」という目標は実現可能なところまで来ているということであった。メイン会場であるNTTアクセスサービスシステム研究所では，ワークショップやテクニカルセッションなどの講演とNTTの研究所ならびに通信関連企業の展示とが同時並行で運営されていた。テクニカルセッション等の講演タイトルなどフォーラムの詳しい内容はホームペー

ジ（URL http://tsukuba-forum.jp）を参照のこと。

ワークショップ3で，JSTTの技術委員でもあるNTTアクセスサービスシステム研究所の守屋洋部長の講演があり，基盤となる土木設備の現状と維持管理に向けたライフサイクルコストの評価手法の方向性などが説明された。通信用の地下設備の総延長は管路63万kmで，各種ライフラインの中で最も多くの設備を有しているが，他のライフラインと同様老朽劣化が進行している。建設後30年を経過した管路が43％を占めており，各種委員会に参加して，効率的な維持管理手法を研究しているということであった。

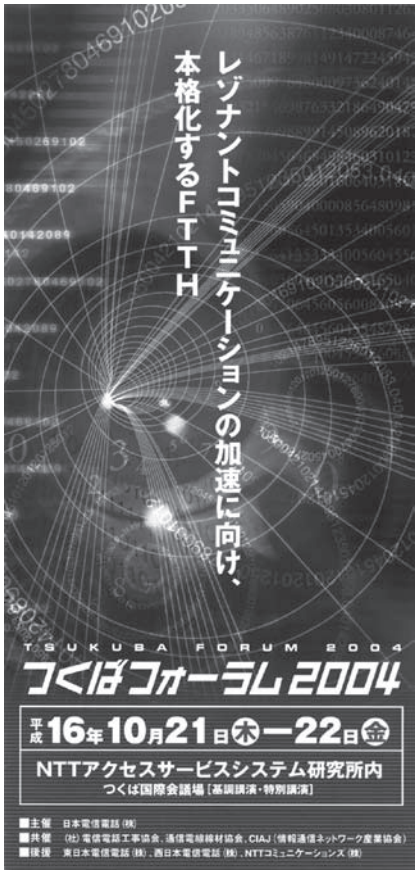
今年は，NTTの世田谷とう道のケーブル火災から20年，阪神大震災から10年という節目の年に当たり，光ファーバーを用いたセンシング技術等の防災技術についても一つの展示コーナーが設置されていた。JSTTの松井会長も会場を視察された。写真は巨視的超音波の説明をしていただいた時のものである。

最先端通信技術の展示会を見た翌日，新潟に置いて大規模な地震が発生し，各種ライフラインは甚大な被害を受けた。新幹線が走行中に脱線するという直下型地震で，加速度は1500ガルあったらしいが，死傷者がでなかったのは不幸中の幸いであった。本号が，発行される1月も各ライフラインは復旧作業の真っ最中と思われるが，被災者の皆様に心からお見舞いを申し上げ，本レポートを終わることとしたい。

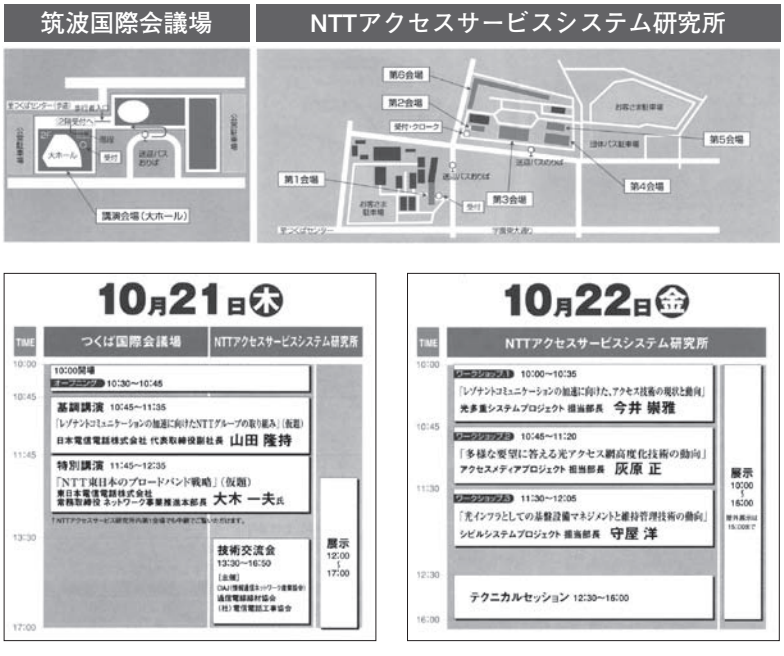


写真－3　屋内会場を視察する松井会長

写真－4　屋外会場を視察する松井会長



写真－5　リーフレット



写真－6　会場図・スケジュール